

CROT-R (レジューメ) での学会発表参考例

① 事例報告としての活用

• はじめに

対象者に対し、OTの専門性を活かしたリーズニングを行うため、CROT-Rの項目を参考に実践を行い、従来の実践と異なる実践となったため、ここに報告する。なお、対象者から発表に際し同意を得ている。(これはあくまでも参考なのでそのまま使わないでください)

• 事例紹介

〇〇歳、男性、脳出血後遺症に伴い急性期治療を終え、発症から20日目に当院回復期へ転院したA氏である。(これはあくまでも参考なのでそのまま使わないでください)

• 方法

従来は〇〇の手順で臨床実践を行うが、今回はCROT-Rの手順で実践した。

• 経過と結果

〇〇の手順で実践をした結果、(←ここは詳細に内容を含めて書いてください)

例1：物語的リーズニングの項目で目標が明確化する効果が得られ、強く動機づけられた

例2：物語的リーズニングの項目で詳細に面接を行うことで、信頼関係が強化された

例3：科学的リーズニングの項目で文献の利用が促進され、介入の根拠が明確化できた

例4：倫理的リーズニングの項目でリスク管理を相談する機会が促進され、安全性を高めた

例5：相互交流的リーズニングの項目で相談が促され、協業関係を築き効果が飛躍的に上昇した

などなど、自由に書いてみてください。

• 考察

従来の実践とCROT-R活用の実践の違い、気づき、効果の比較などで考察をしてみてください

② 施設への導入の試みとしての活用

• はじめに

当院では実習指導や後輩育成において、指導者独自の教育がなされ、統一した指導となっていない。そこで今回CROT-Rを参考に、作業療法の専門性を付与できる統一した指導方法を模索したため、ここに報告する。(これはあくまでも参考なのでそのまま使わないでください)

• 実習指導の課題

指導者は過去の実習を参考に指導を行っていたが、検査測定結果から活動や参加レベルの目標に繋げる考察やリーズニングに難渋していた。(これはあくまでも参考なのでそのまま使わないでください)

方法

CROT-Rは、OTの専門的な5つのリーズニングを含む様式である。導入によりOTの専門性が付与されるなどの硬貨が示されており、当院OTRO名に対し使用を促す試みを①CROT-Rの紹介②見本事例の提示③OTR全員への導入の手順で行う(これはあくまでも参考なのでそのまま使わないでください)

• 経過と結果

導入を試みた結果、①②のCROT-Rの紹介、見本事例の提示では、良好な反応が得られた。しかし③の段階では〇〇の課題が生じ、意見を聞きながら〇〇などの工夫を行いながら使用を促した。その結果、〇〇の結果が得られ、使用者からは〇〇との意見が得られるなど、職場内での使用が常態化し、OGの専門性を活かした統一した指導となった。(これはあくまでも参考なのでそのまま使わないでください)

• 考察

新しいものの導入には多くの障壁が生じる。そこに今回は〇〇を行うことで、その障壁を打破し、理想とする状態まで至ることとなった。

CROT-II（事例検討）での学会発表参考例

① 事例検討実施報告

• はじめに

事例検討会は日々の臨床の問題を解決する方法として推奨されており、積極的な開催が求められている。しかし多忙な業務、ハラスメント問題、効果的な検討会企画の困難さなどが重なり、検討会開催が少なくなっている現状がある。今回 CROT-II の導入により、積極的な開催につながったため、ここに報告する。なお、院内倫理審査の承認を得ている。（これはあくまでも参考なのでこのまま使わないでください）

• 事例検討会の課題

事例検討会では、資料作成に何日もの時間を要し、発表時間や質疑応答時間の確保も難しいため、徐々に開催頻度が減っていく現状であった。その状況に若手 OT は安堵する様子もあり、開催することが負のイメージとなっていた。開催後も質疑に時間を要し、時には発表者を責めるような場面もあり、より負のイメージが強まっていた。（これはあくまでも参考なのでこのまま使わないでください）

• 改善方法

作成時間が短く、OT の事例検討に特化した形で開発された CROT-II の導入を行うこととした。発表者は卒後 2 年目の OT 1 名であり、発表資料作成指導と事例検討会での司会を 17 年目 OT 1 名が務めることとした。（これはあくまでも参考なのでこのまま使わないでください）

• 経過と結果

認知症クライアントに対する BPSD に対する作業環境について焦点をあてる発表であることを示した後、家族のニーズ、と BPSD に対する文献 4 本が示され、採用を検討している作業の実施可否と、リスクについて示した 5 分の発表の後、司会者が参加者へ意見とアドバイスを求めた。参加者からはリスクに対する方法と、過去のケースに提供した環境についてのアドバイスが得られた。検討時間は 20 分で終了し、発表者は 1 時間の資料作成と、5 分の発表で、15 分間アドバイスをもらい、明日からの実践の具体的な手段を得た。発表者からも「また困った段階ですぐに事例検討会のお願いをします」と、積極的に意見を求めるように変化した。（これはあくまでも参考なのでこのまま使わないでください）

• 考察

自由に感じたことや思ったことを考察お願いいたします。